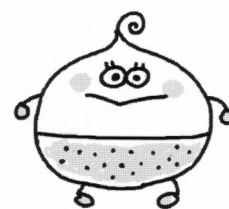


HDM推進会（第26回）／ごみゼロネット推進会（第48回）議事録

開催日： 2012年（H24年）7月 4日（水）10:00～12:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、加藤、大橋、杉本、川村、桐生（作成）



議題： 翌日の行政とのHDM導入検討会に備えての打合せ

1. 資料「実証実験に係る検討事項（案）」の説明（加藤）

- 実証実験使用機種HDM高速堆肥化装置FT-6Dについて、「機械仕様」「検討・測定項目」「その他実証実験に必要な項目」「HDM管理のポイント」を記述した。
- 明日の行政との会合に提出・説明することと決定。

2. 資料「実証実験に係る協議スケジュールについて」他（杉本）

- 資料「実証実験に係る協議スケジュールについて」では「実証機種に係る検討・見積徴収」「実証実験に係る環境協議」等7項目について記述。
- 資料「HDM高速堆肥化装置」では「生ごみ投入量・・・」「臭気測定・・・」等5項目について記述。
- 資料「HDM実証実験」では試験項目4つを記述。
- 1項資料との内容重複の関係で、明日の会合には提出しないと決定。

3. 資料「HDM実証試験に関する提案」（桐生）

- 「1日処理能力を17kgとする」「装置メーカーはレンタルを望まず、買取を希望している」・・・「次のステップ」の8項目を提案。
- 現在のHDM推進会側の意見が強く出過ぎており、行政側にこれを直接提出すると、話が壊れてしまう恐れがあるため、明日の会合には持ち出さない。書面にはせず、あくまでも我々の意見として胸に留め、機会を見て、口頭で持ち出すことに決定。

4. 佐野洋二氏の陳情での口頭発言について（全員）

2/6(月)のごみ特における佐野洋二氏の陳情内容は「生ごみ処理をHDMに限定せず、幅広く方式を検討すべきである」という要旨であり、一見反対しにくい正論を装っているために、採決において関根議員以外の全員が採択に賛成している。しかし、これは「大規模生ごみ処理においてHDM以外の方式も検討しよう」ということで、「複数の自治体が数年に亘って使用実績があり、民間でも多数稼働中の大規模微生物処理HDMに絞られる」という我々の結論を振り出しに戻して、当ての無い最適機種探索を行う不毛な提案である。また、議会での彼の発言記録には微生物処理そのものに否定的であったり、我々のメンバーの知識の低さをあげつらったりする看過しがたい内容が多々ある。何れ何らかの反論をする必要がある、「意見書」の形で書類に残る対応が好適と結論された。

以上

次回打合せ：7月11日（水）10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ
7/5の行政との会議の結果の反省会として行いたい。

行政とHDM推進会の打合せ（第 13回）議事録

開催日： 2012年(H24年) 7月5日(水) 13:00～15:00

場所： 本庁舎3階第2会議室

出席者： 行政側：小野 K、今井 KF、竹内 C

HDM推進会側：平林、加藤、杉本、川村、桐生（作成）

1. 第12回HDM導入検討会の議事録確認について

- 行政側より「第12回HDM導入検討会会議結果（要旨）」2頁の資料が提出・説明された。
- 内容に特に問題はなく、HDM推進会側も承認した。
- HDM推進会側より、「過去にはこのような資料が我々側に提出されていなかった」「作成時に平林氏にメールし、HDM推進会内部で意見を徴してお互いの承認をとってから、公開してほしい」と要請した。

2. HDM実証実験において実証・確認を要する事項について

- 行政側より標記2頁の資料が提出され、各項の説明があった。意見を求められHDM推進会側より二三の意見を述べたが、省略する。
- HDM推進会側より「実証実験に係る検討事項（案）」が提出され、作成者の加藤氏が説明した。
- 両者の項目には同じ内容のものもあるが、異なった内容もあり、次回の会議までに、行政側で両者を合体・調整した資料を提出する。

3. 意見交換

- HDM推進会側の意見だと、フォレスト社は「チップは杉の間伐材でも、剪定枝でもよい」との意向のようだが、行政としてはチップの違いによる最適条件出しが目的ではない。自信のあるチップを入れたパッケージとして提供してもらいたい。（小野 K）
- 推奨処理量はこの装置のサイズの場合、17 kg / 日という値になる。生ごみの種類により最大処理量は異なってくるが、通常、このサイズの他の生ごみ処理方式は30～50 kg / 日を謳っているのだから、単純比較で優劣を比較しないでほしい。日量10トンのレベルで対応できる実績を持つのはHDMしかない。確かに能力の割りに寸法が大きい。そのことにより安定的に消滅処理ができていると考えられる。
- 行政は住宅群を対象とした分散型生ごみ処理を考へての実証実験であるが、仮に小金井市の生ごみ全量をこの装置でやると、1000台のレベルになると承知してほしい。（桐生）

4. 次回開催について

7/25～27の何れかで、会議室が押さえられる日を平林氏に連絡する。

以上

